

こんな活動です

輝志海星！”教育の島”発、地域と協働した高校魅力化の実現

広島県大崎上島町		●活動名 広島県立大崎海星高等学校魅力化プロジェクト			●関係する学校名 広島県立大崎海星高等学校		
協働活動開始年度	平成 27 年度	学校運営協議会	指定・設置日	平成31年4月1日設置	地域学校協働本部	無	
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成				
	地域未来塾	—					
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	—	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 2人			
ボランティアの数	延べ登録人数 22人	企業・NPO等との連携	有	ICT機器活用	有		
参考URL	http://www.osakikaisei-h.hiroshima-c.ed.jp/						
●連絡先	広島県立大崎海星高等学校			☎ 0846-64-3535			

●活動の概要・経緯

大崎上島町は瀬戸内海の中心部に位置する広島県の離島である。平成27年、島唯一の県立高校を廃校にさせないために、高校と地域、自治体が一体となった「大崎海星高校魅力化プロジェクト」を始めた。「地域に開かれた学校」として様々な人材と連携するために町がコーディネーターを学校に配置し、地域の資源を生かした総合的な探究の時間「大崎上島学」の計画・実施、地域人材を活用した公営塾の運営、全国から入学する生徒のための教育寮の設置等を行っている。

生徒は、地域行事、ボランティア活動等にも積極的に参加している。特に大崎上島伝統の「権伝馬競漕」の主要な担い手となっており、少子高齢化により存続が危ぶまれている権伝馬競漕をPRするための「旅する権伝馬」(1泊2日で宮島まで約90kmを権伝馬で航海する)には学校行事として参加している。郷土愛を育むとともに、地域の活性化にもつながっている。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

「大崎上島学」において、1年次「羅針盤学」では、地域人材による出前講座の聴講や地域活動への参加を通して自分の特性や興味を知る。2年次「潮目学」では、地元企業でのフィールドワークにより、その企業が抱える課題や解決策などを学ぶ。3年次「航界学」では、生徒自ら地域課題を発見し、解決策を提案する。これらの活動を通して生徒達は地域と密接に関わることで、島の魅力に気付くとともに、自らの生き方を考える契機となる。

島伝統の「権伝馬競漕」への取組は、地域の行事に参加するだけでなく、学校でも学びの素材として扱っている。また、町民有志による「旅する権伝馬」の取組では漕ぎ手としてはもちろん、陸上でのサポートなど生徒が運営に協力している。

【実施に当たっての工夫】

実施にあたっては、コーディネーターと学校が連携し、年間のプログラムを作成している。その際、生徒が地域の多様な職種・年齢層の人材と出会えるよう地元企業(農業、漁業、造船、福祉施設等)とのマッチング等を行っている。部活動「みりよくゆうびん局」、広報誌、書籍の発行等によって、取組全体に係る情報発信も進めている。

【関係機関・団体等との連携状況】

学校運営協議会、学校活性化地域協議会等において活動の報告や検証などを行い、学校と地域の双方の意見を聞きながら毎年より良いものにしていくよう取り組んでいる。

また、大崎上島町商工会とも連携し、地域学習や職業講話などを実施している。「大崎上島学」での成果を生かし、町商工会による冊子「島の仕事図鑑」の編集に生徒が関わっている。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

生徒は、教師だけでなく、地域の様々な大人から話を聞いたり、地元企業でのフィールドワークで直接現場を見て、さらに受入企業に学びの成果を発表することを通じて、郷土愛だけでなく、地域のことを学びながら自ら課題を考え、解決していく力を身に付けることができた。

また、地元企業にとっても、高校生に自分の仕事や考え方を話すことは、刺激や励みになり、継続してやりたいとの声も多い。この取組をきっかけに生徒が開発した商品を町のイベントに出品する、農家のマルシェを高校の文化祭で開くなど交流が深まり、地域全体の盛り上がりにつながっている。

高校の魅力化は全国から注目され、生徒数が増加した。県外から生徒がくることで、島内生徒も刺激を受けている。

●その他

公営塾では、地域スタッフが生徒の学習支援やICT環境の整備を行う中で、教科指導のみならず、キャリア教育「夢★ラボ」で、将来の目標探求や学習意欲向上、志の育成に取り組んでおり、オンラインを活用した外部講師の授業や交流を行っている。



「旅する権伝馬」を受け継ぐ



「地域人材による出前講座」